

# 高志

長岡高専同窓会報 第14号

発行日 平成15年11月

## 主な内容

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 新会長挨拶                 | 1  |
| 名誉会長挨拶                | 2  |
| 新副会長挨拶・総会報告           | 3  |
| 6号館の竣工・地域共同テクノセンターの紹介 | 4  |
| 独立法人化に向けて・4年目の専攻科     | 5  |
| OB通信                  | 6  |
| 退官・新任教官               | 7  |
| 同窓会長賞の受賞者紹介           | 9  |
| 卒業後の進路                | 9  |
| 体育大会入賞者               | 10 |
| 会計・予算報告他・事業年表         | 11 |
| 新常任理事挨拶               | 12 |
| 高志会の活動紹介              | 12 |
| 編集後記                  | 12 |

## 新会長あいさつ

(高専土木1回) 伊藤恒彦



平成14年度より同窓会長の大役をおおせつかり、微力ながら同窓会の活動に一生懸命取り組んでいきたいと考えておりますので、学内理事の皆様を始め、会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。

申し上げます。

今年度は、3年毎の同窓会報発行を迎え、第14号を皆様にお届け出来ることは、関係各位のご尽力とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

私たちの母校は平成14年、昭和37年に創設されて以来40周年を迎えられたことは、みなさまのご尽力の賜物と感謝しております。また、今日に至るまでに約7,000余名の卒業生を世に送り出すと共に、それぞれの分野でご活躍されていることと思っております。

さて、近年の私たちを取り巻く社会情勢の変化は極めて厳しい時代を迎え、私たち技術者に対しても多様な事柄が求められており、その課題に対応する技術力、そして新たな技術の創出が必要とされています。

このような時代変化の中、高専卒業生の進路は、新たに創設された「専攻科」へ進む学生、さらに高度な知識習得のため大学に進学する学生が大半

を占める状況が見られたり、平成14年11月には、民間企業等との共同研究等の推進を図ることを目的として「地域共同テクノセンター」を開設するなど、学生の技術力向上や新たな技術の創出のための取り組みが行われており、今後とも高専卒業生が多くの分野で活躍されることを期待しております。また、地元の産・官・学が一体となって長岡高専技術協力会を設立し、交流会や講演会などを実施しており、そこには同窓生の諸兄も多数参加されておりますので、ぜひ皆様方にも参加いただければと思います。なお、交流会等の開催の案内は高専内に事務局がございますのでお問い合わせください。最後に、同窓会活動をより活性化するため、寄付金の受付口座を設けておりますのでご支援をお願いいたしますとともに、会員皆様のご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



# 名誉会長あいさつ

## 長岡高専の新時代に向けて

長岡工業高等専門学校校長

高田孝次



今年もおいしい「こしひかり」の新米が出回る季節になりました。経済の面でもようやく僅かながらも明るい兆しがうかがえる昨今、同窓生の皆様におかれまし

てはますますご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

さて、平成16年4月より国立高等専門学校は国立大学と期を同じくして独立行政法人へと大きく変わることはご存じだと思います。全国の55の国立高専は「独立行政法人国立高等専門学校機構」という一つの法人のもとに統一され、新しい歴史の一步を踏み出します。ただし、各高専の名称には変更がなく、本校も従来どおり国立長岡工業高等専門学校と称します。法人化により、高専はこれまでの文部科学省の一部局という立場から離れ、法律上の人格を得て学校運営での裁量の幅が増すとともに、その責任を今まで以上に厳しく問われることとなります。

高い専門的知識を有する実践的技術者の早期育成を目的として昭和37年に創設された高専制度は、見事に社会の要請に応え、今日、卒業生諸氏が我が国産業界の各方面で活躍されておられることは、誠に高専の誇りとすところでもあります。いっぽう、技術の高度化、産業のグローバル化に加えて少子化、大学進学傾向の上昇など、高専教育を取り巻く環境は急激に変化しております。法人化は行政改革の一環でもありますが、私共はこのような社会の変化に応えるものであると捉え、長岡高専新時代に向けての発展のチャンスとしたいと考

えております。

先に述べました通り、高専における実践的技術者教育の理念が優れたものであることは社会の高い評価によって証明されており、法人化後もこの理念に揺るぎがあってはならないものと考えております。本校では、平成14年度に小川正二前校長のもとで5年ぶりの自己点検・評価を実施し、先般、その報告書を公にいたしました。報告書は本校ホームページにも掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。この自己点検・評価は法人化後の本校の在り方を見据えたものとなっており、特に、教育理念として、これまでのそれをさらに進化発展させて21世紀における人材養成にふさわしい「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者の育成」を掲げております。

今後、我が国は産業界にあっても、また、人材面からそれを支える高等技術教育にあっても厳しい試練に立ち向かわねばなりません。本校におきましても、教職員と学生が一体となって輝く新時代の創造をめざして努力する必要があります。同窓生の皆様からの更なるご指導ご鞭撻をお願いいたしますとともに、皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 新副会長あいさつ

### 「感謝回想／副会長」

(高専化学5回)

#### 大島光芳



私は卒業して30年余、地元の化学会社で分析一筋。高専での達成感は野球の連覇のみ、特に高専で何を習ったのかが分からず、中山先生の俺は教えたぞ、社会へ出たら習った顔でいる、の言葉に支えられ、なかった原子吸光も習った顔。3年して研究所へ移り、GCMS担当、解析以前に物質命名法勉強。相手は京大、名大、東工大、一人で遅くなると、試合中、大島頑張れと励まし続ける入沢先生の声、分からないと明日の朝まで持てばそれは仮説と言えると自前の発想を促す大橋先生の声。ものになるぞと自信を植える豊福先生の声。今も感謝している高専時代、記憶に大橋先生の電気化学会本校開催の思い出。職業柄、分析の新潟部会幹事を続ける機会があり、植木先生を部会長に担ぎ出し、高専で1回、部会発表会。この時、中沢先生に大変な助力を頂いた。その先生から、副会長を要請され応えることにした。そして、澁刺と話を進める伊藤会長に出会った。これから宜しく、昨年同窓会に初参加、少ない人数にビックリ。クラスやクラブ、職場毎のOB会に働きかけて同時開催などが頭をよぎった。次回は2005年とのこと。化学科廊下のポスター内容は長岡技大並の高レベル、新大へ行けば高専卒の院生紹介。確かに高専制度は変容した。同窓会はその実態を許容し、幅を広げることが必要と思う。前会報を拝読、湧野君の時代に生きる生々しい「近況報告」。堺屋太一著「東大講義録」は図書にあるだろうか？たまには悠久山、桜咲くグラウンドで、余裕の「知価革命」授業など。僕らには「君らと約束する」と約束した鈴木先生がいた。先生とは1対1、お前と約束する先生であって欲しい。第14回高志会会報発行おめでとうございます。継続は力、一重に常任幹事の先生方の力、ご多忙を拝察し心より感謝いたします。協力を約束し、挨拶とさせていただきます。

## 総会報告

同窓会常任理事 佐藤拓史

(前総務担当)

平成14年度の高志会総会は平成14年10月26日に長岡工業高等専門学校を会場に開催されました。新潟県在住の会員全員に案内を送付し、多忙時にもかかわらず32名の会員の方から出席していただきました。総会案内が総会開催2週間前という時期になってしまったことをこの場を借りてお詫びいたします。

高志会総会では新会長、新副会長が選出され、満場一致で承認されました。これを受けまして、伊藤恒彦新会長及び大島光芳新副会長から就任の挨拶がありました。ついで総務の佐藤より活動状況報告ということで、平成11年度、12年度、13年度の高志会の主な活動と同窓会長賞についての説明がありました。同窓会長賞は平成6年度より、在学期間中においてクラブ活動など、課外活動で著しい活躍をした学生に対して行っているものです。その後、会計の竹部より平成11年度、12年度、13年度の決算報告があり、承認を受けました。

現在、高志会の大きな事業は会員名簿発行、総会の開催、会報の発行の3つであり、毎年一つずつ、3年インターバルで行っています。また、高志会のHP (<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/do/>) では最新の情報を掲載するとともに、会員同士の情報交換の場として利用していただけるような運用を行っています。

総会の後に校内見学会を実施し、平成14年7月に完成(一部10月完成)した新講義棟(6号館)や機械工場などの見学を行いました。その後の懇親会では先生を囲み、または旧友同士で旧交を温める笑いの輪が広がり、懇親会は成功裡に終了することができました。



## 6号館の竣工

平成14年9月に竣工した6号館は、専攻科の設置による学生定員の増と既存校舎の狭隘解消、産学連携による共同研究を積極的に推進するために



4号館との渡り廊下

設置されたものです。校舎と地域共同テクノセンターの合築からなるこの施設は、20室の学生ホームルームと1階には実験研究用の大型機械が設置された3つの研究室、多目的会議室や技術相談室、センター長室、研究員室を配しており、専門基礎教育の場として、あるいは、共同研究、技術相談、公開講座の場として利用されます。6号館は市街地を一望できるカーテンウォールを正面に配置して、学校内のシンボル性を持たせています。

また、内部はエレベータを中心とするコア空間を中央に配置し、休息スペースも設けてあります。また、



カーテンウォールからグラウンドを望む

快適な学習環境のために冷暖房を設備し、省エネにも配慮して昼光センサーや人感センサーによる照明制御なども採用しています。



グラウンドから6号館の眺望

## 地域共同テクノセンターの紹介

地域共同テクノセンター長

有本匡男

長岡高専が蓄積してきた技術開発や研究成果を地域社会に還元し、地域に利用・活用していただく「地域に貢献する長岡高専」の実現を推進する拠点が地域共同テクノセンターです。共同研究や技術相談を行うことにより、地域の技術力を高め、地域産業の活性化を助長し、地域の経済力の向上に資することを目的にしています。

施設内には実験室、技術相談室、招待研究員室及び多目的会議室が設置されています。実験室には、NCワイヤ放電加工機、分析走査電子顕微鏡および超伝導多核NMR装置が設置されています。

NCワイヤ放電加工機は、ワイヤ電極と加工物との間で放電を発生させ、加工物を数値制御で動かして任意の輪郭を形成します。0.05~0.3mmφのワイヤが装着可能ですので、微細加工から通常加工まで幅広く対応できます。また、板厚80mmまでの加工物をサブミクロンの表面粗さに仕上げることができます。さらに、CAD/CAM機能を標準装備していますので、加工シミュレーションが可能です。

超伝導多核NMR装置は、 $^1\text{H}$ 、 $^{13}\text{C}$ 、 $^{19}\text{F}$ 核に加え、多核種の測定も可能です。その用途は、複雑な天然物・高分子・タンパク質・新素材の定量定性分析、工業原料から製品の品質管理に至るまで幅広いものがあります。

分析走査電子顕微鏡は、観察から分析まで多様化する解析研究分野に対応するため、多用途試料室と新開発の電子光学系を搭載した、ナノテクノロジー時代に対応する装置です。EDSによる定性・簡易定量分析が可能です。さらに、試料室の真空を数10Paにすることで、生物試料などの非導電性試料の観察と元素分析ができます。



# 独立法人化に向けて

教務主事

小林 和久



国立大学の独立法人化とともに、平成16年4月より国立高専も独立行政法人化します。1大学1法人と異なっており、個々の規模が小さい高専は、55高専が一つとなる独立行政法人「国立高等専門学校機構」として再出発することになりました。国立

高等教育機関の独立行政法人化は、戦後学校教育の大改革と言ってよいでしょう。国家公務員総定員の削減案に端を発した独立法人化構想は、理由は何であれ、これまでの教育行政、教育運営に大変革を余儀なくされます。国からの大幅な裁量の委譲と拡大とともに、民間的発想による経営手法の導入、高専の個性化、活性化、教育研究の高度化が要求されます。これまで国の保護下におかれ、自ら痛みを負わなく、時代の変化にともすると鈍感であった教育界。社会的貢献と地域からのニーズに応えなければ教育機関として存続も危ぶまれる新システムを、災い転じて福として捉えるべきと思います。

独立行政法人化に向けて、本校は、これまで技術者教育機関としての国際的品質保証を得るため、「日本技術者教育認定制度（JABEE）」への認定申請（平成17年度には審査申請する予定）の努力、教育理念、教育目標の抜本的改訂や地方自治体、地域産業界などの視点に立った学外者の参画による社会に開かれた教育運営システムにするために外部評価委員会を開催し、法人化後の教育研究運営にとって貴重な意見を頂くなどの努力を行ってきました。

また、明日を担う若手中堅教官が中心になって、法人化を見据えた本校の中期的な教育目標・計画が策定されました。校長のリーダーシップの強化と機動性の高い組織運営、教育・研究に対する評価法の導入とインセンティブ付与、地域社会との連携強化、創造豊かな実践的技術者を育成するための基礎学力の強化等々が骨子となっています。

グローバル化や情報技術の進展など産業構造の変化、少子高齢化や高学歴化などで、高専の社会的地盤の沈下が続いたこの十数年、独立行政法人化を機に大変革を断行しなければ高専は、産業界や社会から見捨てられるでしょう。いま、本校は、全教職員一丸となって法人化に向けて改革に取り組んでいます。同窓会会員の皆様のご理解とご支援を今後とも切にお願い申し上げます。

# 4年目の専攻科

専攻科長

塩野 計司



長岡の専攻科は平成12年度に開設され、今年4年目を走っています。国立高専に初めての専攻科が設置されたのは平成4年のことでしたので、長岡の専攻科は第9期ということになります。高専1期校の長岡も、専攻科に関しては早いほうでは

ありませんでした。専攻科の設置に尽力された人々からは、1回目の設置申請から開設までの年月が「長かった」という感想を聞かれます。

すでにご存知のこととは思いますが、専攻科は高専の卒業生を主な対象とした2年間の課程です。長岡の専攻科には、電子機械システム工学、物質工学、環境都市工学という3つの専攻があります。入学定員は20名ですが、今年度は、1学年に34人、2学年に32人が在籍しています。優秀な成績で学科での勉強を終え、専攻科を進学先に選んでくれた卒業生が多く、とてもうれしく、有り難いことだと思っています。校内には「これからは、専攻科が高専の中心になって」と説く人が多いのですが、優れた学生が集まってくれなければ、その考えがあえなく霧散することは必定です。

4年前、専攻科ができると同時に入学してくれた学生は29名でした。様々な卒業年次、様々な出身校の学生が入学してくれて、手応えのあるスタートでした。ただし、勉強での熱心さも様々で、2年後の平成14年3月に修了した学生は21名でした。当初の希望を実現できた学生が72%だったということになります。残念な数字でした。次の年には32名の2年生がいましたが、修了者は27名でした。実際の修了者は、修了予定者の84%だったこととなります。

来年の3月に修了を予定している学生は32名です。学年の中ほどを終えた今、その32名すべての修了が、現実的なものになってきました。72、84と上昇してきた値が、100になるかも知れません。どんなに悪くても90のオーダーに達することは確実です。

これまでの2回の修了式では、晴れやかな修了者を見て、うれしくお祝いを言ってきました。その一方で、その場に居合わせなかった人々のことは、いつも大きな気がかりでした。そのような重荷からも解放され、「専攻科は順調です。」「これからの長岡高専は、専攻科が引っぱっていきましょ。」「言えるようになるかも知れないー4年目の専攻科は、そんな期待を抱いて走っています。

## 近況報告

(財)電力中央研究所 情報研究所  
情報科学担当部長 上席研究員  
(高専電気10回)

松井 正一



昭和46年4月の高専入学以来はや30年以上が経過しつつありますが、高専時代の諸先生方、友人、学園生活はいまでも懐かしく思い出します。なかなか参加できないのですが、同期会も楽しみにしています。

昭和51年に卒業し、東京大学工学部への第1回の編入生として計数工学科数理工学コースに進学し、昭和54年に学部を卒業、大学院情報工学科修士課程を昭和56年に修了し、現在の職場に就職しました。不思議なことに同期で東大に編入した11名のうちの3名が同じ電力中央研究所に勤務しています。

研究所全体の職制改変により勤務する研究所の名称は何回か変わり、勤務地も大手町から狛江市へと1回変わりました。また、米国の電力研究所(Electric Power Research Institute)との国際共同研究に従事するために、米国ワシントンDCの郊外に1年間ほど滞在した経験があります。しかし転勤と呼べるほどのものではなく、入所した当時は経済予測のための情報システムの開発、計算機システムの性能評価とチューニングなどに関する研究開発を行っていました。その後、日米共同で実施した地球温暖化の電気事業経営への影響評価などのテーマなどにも従事しました。

現在は大規模でかつ複雑なシステムの最適化手法の研究とネットワークセキュリティに関する研究を主にしています。最適化手法としては生物の進化を模倣した「遺伝的アルゴリズム」といった進化的計算手法を中心に研究しています。セキュリティに関しては重要インフラである電力のシステムを効果的に守るセキュリティ技術について検討しています。

通勤電車の中で推理小説を読むとか音楽を聴くとかは趣味とは言いがたく、「私の趣味は仕事です」と言っていたほどの無趣味人間でしたが、ここ数年は前の研究所長の趣味に付き合うという形で始めた「蕎麦打ち」と蕎麦屋巡りを趣味としております。

最近ではインターネットで品質の良い蕎麦粉も簡単に入手でき、良い蕎麦粉を使えば、うでが多少悪くても打ちたて、茹でたての蕎麦なら、かなり美味しいものになりますので、家族にも喜ばれています。調子によって年末の年越し蕎麦も作ったりしております。

杉浦日向子とソ連編の「ソバ屋で憩う」をバイブルとして蕎麦屋巡りにも励んでいる？ところですが、なかなか時間がとれなくてまだ先は長い！というのが実情です。

最期になりましたが、長岡高専の一層の発展を祈念いたします。

## 私の会社づくり

時田シーブイディーシステムズ株式会社  
代表取締役  
(高専化学15回)

時田 修二



昨年の春、約20年のサラリーマン生活を終わりにして会社を作りました。会社の運営では初めての経験が多く、忙しい毎日を過ごしています。この度、OB通信に投稿する機会をいただいたので、私の近況として会社設立のお話をさせていただきます。

私が東京からUターンして勤務した燕の会社は、長岡技術科学大学と共同研究をしていました。担当者として私が仕事を始めて1年後に同大学院に社会人入学し、研究する機会を与えられました。私が学んだのは大気開放型CVD(化学気相析出)法で、化学系斎藤先生がご研究されておりました。

それから2年間、実用化(商売)になるように仕事をしましたが、なかなかうまくいきませんでした。会社の方針と私の考えが合わないこと、自分自身で思い通りにビジネスをしてみたいことなどの理由から退職し、会社を設立しました。私に賛同していただいた方々の出資を含めて株式会社として設立しました。(大学発ベンチャー企業です。)

設立当初、私と共同経営者の2人で始めましたので、大海に小舟で乗り出したような不安でいっぱいでした。長岡技科大・斎藤先生のご支援もあり、なんとか仕事をこなしていました。設立1年目で多少黒字になり、少しずつ自信がついてきました。その後も共同経営者が体調をこわして退任するなど、1年半の間にいろいろなことがありました。現在は、総勢5名になり仕事も増えて会社らしくなりました。

当社の大気開放型CVD法は、大手企業の研究部門、製品開発部門から引き合いが多くあり、特に酸化チタン膜の評価が高いようです。来年は、量産化の計画もあり会社の発展を期待しています。

私は社長ではありますが、経営・人材探し・試作・営業・装置メンテナンスなどさまざまな業務をこなしています。忙しいのは当たり前ですが、やりがいや楽しさを感じています。特に、他社の研究者との打ち合わせ(宴会を含む)は、新しい知識(情報)を得られるので楽しみです。また、若い社員や長岡技科大学から元気をもらっています。(当社は、長岡技科大内で研究開発をしています。)

最後に、当社も長岡高専(専攻科)卒業生が1人います。企業を発展させるために人材が必要であり、これからも長岡高専から優れた人材が育っていくことを期待しています。

# 退官・新任教官

教官の異動（平成13年3月～平成15年10月）

## 退 官

H13. 3. 31 機械工学科 助教授 藤田 稔  
H13. 3. 31 物質工学科 教授 関沢 恒男  
H14. 3. 31 一般教育科 教授 山井 正己  
H14. 3. 31 電気工学科 教授 高橋 正和  
H14. 3. 31 物質工学科 教授 中沢 章  
H15. 3. 31 校 長 小川 正二  
H15. 3. 31 環境都市工学科 教授 武田鐵治郎  
H15. 3. 31 物質工学科 教授 高橋 正士  
H15. 9. 30 一般教育科 教授 岡 武文

## 物 故

H14. 2. 6 一般教育科 助教授 川村 浩司

## 新 任

H13. 4. 1 機械工学科 助手 山岸 真幸  
H13. 7. 1 物質工学科 助手 荒木 秀明  
H13. 8. 1 物質工学科 教授 岩間 正典  
H14. 4. 1 電気工学科 教授 恒岡まさき  
H14. 4. 1 電気工学科 助教授 田口裕二郎  
H14. 4. 1 一般教育科 講師 江田 茂行  
H14. 4. 1 物質工学科 教授 加藤 正直  
H15. 4. 1 校 長 高田 孝次  
H15. 10. 1 一般教育科 助教授 田中 聡  
H15. 10. 1 一般教育科 講師 高橋 剛

## 退官のことば（「学園だより」より転載）

機械工学科 藤 田 稔  
(H13. 3. 31)

1966年に本校に着任して以来35年が過ぎました。振り返ってみますと紆余曲折して、響をかうようなことも多々ありましたが、多くの善意に支えられてようやく今日までこられたような気が致します。

この永い年月の間に記念になるようなものを残せなかったと思えば、女子寮の名称「清花寮」がありました。当時過分な賞金もいただきました。得たものといえば、スポーツでは近年テニスを覚えたことです。手軽にやれるのでゴルフ、バドミントン、スキーと合わせて体力の続く限り嗜むつもりです。新年度からは実験室の手伝いに来ますのでコートにも顔を出したいと思っています。今年は雪が多いのでシーズン中にアルペン、スノーボードを覚えることにも挑戦しています。先日はスキー場のゴンドラの窓からワイヤーロープに目をやってみました。果たしてロープと子繩の振りの方向が同じでありました。ラングの発明によるこの「ラングより」はロープと子繩振りの方向が反対の「普通より」に比べて振りが戻りやすい欠点はあるが柔軟で摩擦が少なく耐久性が高いので、あるいは使われているかも知れないと思っていました。30年もロープの講義をしてきていながら今回初めて実物を見て確認できたわけです。講義の中でもワイヤーロープのところは送電線などの懸垂線の力学が出てきて、やり甲斐のあるところの一つでありました。研究で得たものは興味本位だけで、あれこれと横道にそれて最後にたどりついたテーマ「存在論」でした。そもそものきっかけは「ロボットの心」などを論じた数年前の日本機械学会誌の特集「心のメカ」にありました。最も遠い機械工学と哲学が両極端で一致したという感じですが、ハイデッカーの「存在と時間」や般若心経の「色即是空」などがヒントになり、これほど根本的で魅力のあるものはありません。当分はこのあたりを掘り下げてみることにしようと思っております。

最後にいろいろな意味で大変な時代にさしかかっている折から、今後の長岡高専の一層の発展を心からお祈りいたします。

物質工学科 関 沢 恒 男  
(H13. 3. 31)

1962年（昭和37年）本校の前身である長岡工業短期大学に赴任してきて以来、39年の長い間勤めさせていただきました。まさに、半生を本校で過ごしたとの感慨があります。

「地域産業に貢献する人材を育成する」という建学の理念のもとに、創設期には優秀な学生達が集まってきました。彼らは卒業後、地元産業界はむろんのこと、大手企業の技術者、または中央官庁の職員、大学、高専の教官、医者、弁護士等々へと、広く様々な分野に向かい、現在一線で活躍しています。当時、彼等のような向学心に燃えた学生達と日々接することで、我々もまた勉学を余儀なくされました。ロシア語に堪能な先生を講師に、数人の学生達とゼミを開き、共に勉強したことも懐かしい思い出の一つです。

今、新しい世紀を迎えて社会は大きく変化してい



# 同窓会長賞の受賞者紹介

## 平成12年度受賞者

|     |     |     |     |      |         |      |
|-----|-----|-----|-----|------|---------|------|
| 山池大 | 田津石 | 弘和良 | 樹弘平 | (電気) | ハンド     | ボール部 |
| 秋藤高 | 山田野 | 尚亮  | 貴亮  | (電気) | 水泳部     |      |
| 二ツ星 | 矢野村 | 充達  | 彦広  | (機械) | バレー     | ボール部 |
| 河酒渡 | 井邊  | 知大  | 史輔  | (制御) | 柔道部     |      |
| 岩樋坂 | 淵口井 | 貴美  | 子千枝 | (環境) | ロボティクス部 |      |
| テイ  | ・   | シュー | ピン  | (物質) | 外国語     | 愛好会  |

|      |    |     |    |      |         |      |
|------|----|-----|----|------|---------|------|
| 濁川   | 八木 | 慎大  | 司輔 | (機械) | ロボティクス部 |      |
| 八木   | 石見 | 直成  | 人行 | (機械) | "       |      |
| 佐藤   | 高橋 | 翔   | 幸  | (制御) | "       |      |
| 藤田   | 田友 | 宏   | 典  | (制御) | "       |      |
| 山田   | 小坂 | 井   | 史  | (物質) | "       |      |
| ヘンリー | ・  | ウォン | ・  | ミン   | (物質)    | 外国語  |
| 鈴木   | 崇  | 之   |    | (制御) | プロコン    | 課題部門 |

## 平成14年度受賞者

|    |    |    |    |      |         |
|----|----|----|----|------|---------|
| 吉桑 | 田原 | 正洋 | 堯平 | (電気) | ロボティクス部 |
| 佐藤 | 見  | 亮  | 睦  | (電気) | "       |
| 里見 | 井  | 勝成 | 輔  | (機械) | "       |
| 玉濃 | 部  | 大和 | 裕  | (物質) | 電算機部    |
| 地服 | 滝澤 | 阿本 | 間  | (電気) | "       |
| 滝澤 | 阿本 | 小野 | 塚  | (電気) | "       |
| 阿本 | 間  | 大和 | 祐  | (環境) | 英語      |
| 小野 | 塚  | 大和 | 祐  | (機械) | 学習      |
| 淵田 | 藤  | 翔  | 輔  | (環境) | 研究会     |

## 平成13年度受賞者

|     |    |    |    |      |     |      |
|-----|----|----|----|------|-----|------|
| 押川  | 木浪 | 守大 | 守大 | (環境) | 陸上  | 部    |
| 早川  | 川浩 | 靖  | 里  | (電気) | バレー | ボール部 |
| 大久保 | 美里 | 進  | 晃  | (環境) | "   | "    |
| 安部  | 澤英 | 晃  | 英  | (環境) | "   | "    |
| 宮澤  | 英  | 晃  | 英  | (機械) | 野球  | 部    |
| 平原  | 鉦  | 英  |    | (機械) | ハンド | ボール部 |
|     |    |    |    |      | 水泳  | 部    |

# 平成14年度 卒業後の進路

平成15年3月現在

【進路状況表】  
【学 科】

【産業別就職者状況表】

| 学科・専攻名  | 卒業者数・修了者数 | 進学者数 | 就職者数 |    | その他の |
|---------|-----------|------|------|----|------|
|         |           |      | 県内   | 県外 |      |
| 機械工学科   | 41        | 27   | 3    | 9  | 2    |
| 電気工学科   | 41        | 25   | 4    | 7  | 5    |
| 電子制御工学科 | 41        | 33   | 2    | 4  | 2    |
| 物質工学科   | 50        | 32   | 7    | 8  | 3    |
| 環境都市工学科 | 38        | 25   | 5    | 4  | 4    |
| 計       | 211       | 142  | 21   | 32 | 16   |

| 建設業 | 製造業  |           |           |           |         | 電気・ガス・水道 | 運輸・通信業 | サービス業 | 公務・公団等 | その他 | 合計 |
|-----|------|-----------|-----------|-----------|---------|----------|--------|-------|--------|-----|----|
|     | 化学工業 | 一般機械器具製造業 | 電気機械器具製造業 | 精密機械器具製造業 | その他の製造業 |          |        |       |        |     |    |
|     | 1    | 2         | 3         | 3         | 2       |          |        | 1     |        |     | 12 |
|     |      | 1         | 4         |           | 2       | 1        | 1      | 2     |        |     | 11 |
|     | 1    | 2         |           | 1         | 1       |          | 1      |       |        |     | 6  |
|     | 7    | 2         |           | 1         | 4       |          |        | 1     |        |     | 15 |
| 5   |      |           |           |           |         |          |        |       | 4      |     | 9  |
| 5   | 9    | 7         | 7         | 5         | 9       | 1        | 2      | 4     | 4      |     | 53 |

【専攻科】

|            |    |   |    |   |   |
|------------|----|---|----|---|---|
| 電子機械システム工学 | 18 | 3 | 7  | 6 | 2 |
| 物質工学       | 8  | 3 | 2  | 1 | 2 |
| 環境都市工学     | 3  | 2 | 1  | 0 | 0 |
| 計          | 29 | 8 | 10 | 7 | 4 |

|   |  |   |   |   |   |  |  |   |  |  |    |
|---|--|---|---|---|---|--|--|---|--|--|----|
|   |  | 5 | 2 | 2 |   |  |  | 4 |  |  | 13 |
|   |  |   | 1 |   | 2 |  |  |   |  |  | 3  |
| 1 |  |   |   |   |   |  |  |   |  |  | 1  |
| 1 |  | 5 | 3 | 2 | 2 |  |  | 4 |  |  | 17 |

# 体育大会入賞者

## 平成12年度 関東信越地区大会 (全国大会出場者)

◎陸上競技  
男子  
110mH 1位 浅間 勝也  
1500m 2位 井浦 和也  
やり投げ 3位 押木 守  
走り高跳び 3位 小島 正樹  
5000m 2位 櫻井 貴文

◎バレーボール 2位

◎柔道  
男子  
60Kg 2位 阿部 裕之  
73Kg 1位 淵田 祐  
2位 山子 順  
90Kg 1位 岩淵 暁一  
2位 大野 拓郎

女子  
52Kg 2位 樋口美千枝

◎バドミントン 男子団体 2位  
男子  
(複) 2位 小林 倫文  
細川 哲  
(単) 2位 細川 哲

◎水泳  
男子  
200m個人メドレー 2位 浅野 周治  
100m平泳 3位 平原 鉦英  
200m平泳ぎ 3位 平原 鉦英  
200m自由形 3位 清水 貴裕  
800m自由形 3位 太田 雅  
200m背泳ぎ 3位 二ツ矢充彦

女子  
50mバタフライ 2位 関 綾子

◎テニス  
女子 ダブルス 2位 中村久美子  
山賀 陽美

◎卓球  
女子 シングルス 2位 清水麻里江

◎剣道 1位 諏佐 俊輔

◎ラグビーフットボール 優勝

## 平成12年度全国高専体育大会結果

◎陸上競技  
5000m 2位 櫻井 貴文

## 平成13年度 関東信越地区大会 (全国大会出場者)

◎陸上競技  
男子  
やり投げ 優勝 押木 守  
5000m 2位 櫻井 貴文

女子  
100m 優勝 真保 鮎子

◎バレーボール 男子 優勝

◎柔道  
男子 団体 優勝  
60Kg 2位 阿部 裕之  
73Kg 優勝 淵田 祐  
73Kg 2位 本間 泰  
90Kg 優勝 大野 拓郎

◎卓球  
男子  
個人シングルス 優勝 丸山 敦史

女子  
個人シングルス 2位 清水麻理江

◎テニス  
男子 団体 2位

◎水泳  
男子  
100m平泳ぎ 優勝 平原 鉦英  
100mバタフライ 優勝 山田 暢一  
200mバタフライ 優勝 山田 暢一

◎ラグビーフットボール 優勝

## 平成13年度全国高専体育大会結果

◎陸上競技  
男子 やり投げ 2位 押木 守  
女子 100m 4位 真保 鮎子

◎柔道  
男子 団体 3位  
73Kg 3位 淵田 祐

◎水泳  
男子  
100mバタフライ 5位 山田 暢一  
200mバタフライ 4位 山田 暢一

## 平成14年度 関東信越地区大会 (全国大会出場者)

◎陸上競技  
男子  
5000m 優勝 櫻井 貴文  
やり投げ 3位 高橋 秀和

女子  
100m 優勝 真保 鮎子

◎バレーボール 男子 優勝

◎柔道  
男子団体 2位

◎ハンドボール 優勝

◎テニス  
男子ダブルス 優勝 大庭 泰治  
三宮 博司

◎水泳  
男子  
100mバタフライ 優勝 山田 暢一  
200m個人メドレー 2位 山田 暢一  
100m自由形 3位 風間 力

◎ラグビーフットボール 優勝

## 平成14年度全国高専体育大会結果

◎陸上競技  
男子  
5000m 優勝 櫻井 貴文  
女子  
100m 6位 真保 鮎子

◎水泳  
男子  
200m個人メドレー 6位 山田 暢一



## 平成14年度会計報告

## 平成15年度予算

### 収入の部

(単位：円)

| 摘要     | 予算         | 決算         | 備考          |
|--------|------------|------------|-------------|
| 前年度繰越金 | 24,392,969 | 24,392,969 |             |
| 会費     | 3,090,000  | 3,420,000  | 15,000×228名 |
| 利息     | 25,000     | 21,153     | 大光銀行他       |
| 名簿代金   | 0          | 20,800     | 2,600×8冊    |
| 合計     | 27,507,969 | 27,854,922 |             |

### 支出の部

| 摘要     | 予算         | 決算         | 備考             |
|--------|------------|------------|----------------|
| 総会補助費  | 600,000    | 437,665    |                |
| 名簿発行費  | 0          | 2,110      | 名簿郵送料、名簿振込み手数料 |
| 事務費    | 200,000    | 25,525     |                |
| 旅費・日当  | 200,000    | 93,000     | 交通費・日当         |
| 会議費    | 100,000    | 46,189     | 会議会場費・学内理事会補助他 |
| 証書ファイル | 150,000    | 136,521    | 卒業証書入れ・紙袋      |
| 通信費    | 30,000     | 14,000     |                |
| 支部結成補助 | 20,000     | 0          |                |
| 支部補助費  | 100,000    | 0          |                |
| 人件費    | 700,000    | 280,000    | パート給与・役員手当     |
| 終身会費返還 | 0          | 230,000    | 23名            |
| 同窓会長賞  | 140,000    | 130,658    | 記念品代           |
| 予備費    | 350,000    | 406,304    | 餞別他            |
| 合計     | 2,590,000  | 1,801,972  |                |
| 次年度繰越金 | 24,917,969 | 26,052,950 |                |
| 累計     | 27,507,969 | 27,854,922 |                |

### 資産内訳

|             |            |
|-------------|------------|
| 定期預金(大光)    | 10,000,000 |
| 普通預金(大光・会費) | 3,339,998  |
| 普通預金(大光・寄付) | 1,480,007  |
| 定期貯金(中沢郵便局) | 8,032,000  |
| 普通貯金(栖吉郵便局) | 69,697     |
| 定期預金(北越)    | 3,131,151  |
| 現金          | 97         |
| 合計          | 26,052,950 |

### 収入の部

(単位：円)

| 摘要     | 予算         | 備考          |
|--------|------------|-------------|
| 前年度繰越金 | 26,052,950 |             |
| 会費     | 3,330,000  | 15,000×222名 |
| 利息     | 21,000     | 大光銀行他       |
| 合計     | 29,403,950 |             |

### 支出の部

| 摘要     | 予算         | 備考         |
|--------|------------|------------|
| 会報発行費  | 1,000,000  | 印刷代、郵送費他   |
| 事務費    | 200,000    | 事務用品       |
| 旅費・日当  | 200,000    | 交通費・日当     |
| 会議費    | 100,000    | 会議会場費他     |
| 証書ファイル | 150,000    | 卒業証書入れ他    |
| 通信費    | 30,000     |            |
| 支部結成補助 | 20,000     |            |
| 支部補助費  | 100,000    |            |
| 人件費    | 400,000    | パート給与・役員手当 |
| 同窓会長賞  | 95,000     | 記念品代       |
| 予備費    | 350,000    | 餞別他        |
| 合計     | 2,645,000  |            |
| 次年度繰越金 | 26,758,950 |            |
| 累計     | 29,403,950 |            |

### 事業年表 (平成13、14、15、16年)

|            |  |
|------------|--|
| 平成13年7月16日 | 常任理事会<br>平成13年度版同窓会名簿発行について                  |
| 10月5日      | 高専OB大交流会出席                                   |
| 12月20日     | 平成13年度版同窓会名簿発行                               |
| 平成14年3月12日 | 定期理事総会<br>平成13年度事業報告および決算<br>平成14年度事業計画および予算 |
| 6月7日       | 常任理事会<br>高志会総会開催について                         |
| 10月26日     | 平成14年度高志会総会                                  |
| 平成15年2月26日 | 常任理事会<br>慶弔費の改定について                          |
| 3月12日      | 定期理事総会<br>平成14年度事業報告および決算<br>平成15年度事業計画および予算 |
| 7月14日      | 常任理事会<br>第14号同窓会報発行について                      |
| 8月28日      | 常任理事会<br>同窓会名簿発行の委託業者変更について                  |
| 11月        | 第14号同窓会報発行(予定)                               |
| 平成16年3月    | 定期理事総会(予定)                                   |

# 新常任理事あいさつ

(物質工学科) 荒木 秀明

(一般教育科) 高橋 剛



長岡市出身。平成6年に本校電気工学科を卒業、新潟大学理学部物理学科に編入学し、新潟大学大学院自然科学研究科を経て、平成13年から本校物質工学科に勤務しています。電気科を卒業してなぜ物質科に？と思われるかもしれませんが、

電気工学科での卒業研究のテーマに半導体材料を選んだことをきっかけに、編入後も熔融金属・熔融塩（燃料電池）の研究や水素吸蔵合金に関する研究といったエネルギーに関連した材料の研究を行ってきました。現在、これら材料の物性が専門分野となり、物質工学科に所属しております。

7年半ぶりに母校へ戻ってきて、同窓会学内理事となったわけですが、学科名が変わっていたり、専攻科ができていたり、新しく校舎が建つなど、いろいろ変化していました。こういった長岡高専の日々の変化を会報などを通して皆さまにお知らせするお手伝いできればと思います。よろしくお願いいたします。



東頸城郡松之山町出身。平成8年3月本校電気工学科を卒業。新潟大学理学部数学科に編入学して、平成15年3月新潟大学大学院自然科学研究科にて博士（理学）の学位を取得しました。半年間の就職活動の後、平成15年10月から本校一般教育科に勤務しています。就職状況がとても厳しく、日本全国どこで働くことになるかわからないと考えていたのですが、愛着ある母校に戻ってくることができて非常にうれしく思っています。働き始めて間もないため、まだまだわからないことばかりです。どうぞよろしくお願いいたします。



## 高志会の活動紹介

高志会では、長岡高専同窓会の発展と会員相互の親睦のために活動を行っています。主なものは、(1)高志会総会(2)同窓会名簿の発行(3)同窓会報の発行で、毎年1件ずつ3年インターバルで実施しています。毎年、卒業式後の表彰授与式において、在校時の課外活動で顕著な成績を収めた新卒業生に対し同窓会長賞として賞状と記念品を授与しています。また、卒業生全員に授与される学位記カバーやロボコン大会への援助なども継続して行っています。これらの同窓会の活動や各種の情報は長岡高専同窓会のホームページ(URL:<http://www.nagaoka-ct.ac.jp/do/>)に掲載しております。今後は、ホームページの内容を充実させ、同窓会の活動をリアルタイムで報告させていただきます。

来年度は名簿の発行となります。今年末より葉書による名簿データの見直し作業を始めます。現在、宛先が不明もしくは転居先不明で連絡を取ることのできない会員が多くなっています。住所変更等がありましたら、是非調査にご協力ください。また、ご友人でこの会報が届かない方が近くにおられる場合は同窓会にご一報下さいませようをお願い致します。

同窓会は在校中に納入していただいた終身会費により運営されてきましたが、現在は低金利のため資産運用による利息を原資とする従来の方式は困難になりつつあります。平成9年度より寄付事業をはじめさせて頂き、多くの会員の皆様から応募を頂きました。誠にありがとうございました。頂きましたご寄付はロボコン助成や6号

館の竣工式等に支出させて頂きました。今後ともご寄付をお願い致します。(総務 高専土木7回 荒木)

ご寄付の額：一口2000円（何口でも）

口座：郵便払込み 00540-5-36611 長岡高専同窓会

## 編 集 後 記

今年が良いか悪いかは別に涼しい夏でしたが、高専にも新しい夏の訪れか？平成16年4月1日から、独立行政法人「国立高等専門学校機構」となることが決定しました。全国55高専で1つの法人ですが、それ以外の詳細は不明です。学校も学内理事も教育改革に迫られながらの両手に花の賑わい？今回はこの機構からの発信になるでしょう。これから同窓会名簿の作成に入ります。皆様もお元気でご活躍を！！ (事務局長 短大機械2回 小林)

長岡工業高等専門学校同窓会

〒940-8532 長岡市西片貝町888

長岡工業高等専門学校内

電話 0258(39)1565 (事務局)

0258(34)9216 (担当幹事)